

多くの人に
参加してほしい

竹迫観音祭保存会会長
(上町区長)
安永義信さん(63)



毎年7月10日に行なうのが伝統でしたが、ことしから開催日を7月の第2土曜日としました。世帯数の減少や参加者の就業形態が多様になってきたことなどから、地域の人に参加しやすい環境をつくることで多くの人に参加してもらい、伝統行事を受け継いでいきたいと考えています。



3町の小学生は、1カ月以上前から笛の練習に取り組んできました。メロディは耳で覚えます。楽譜や指導書はありません。1年生は、最初は音を出せないことが多いため、まずは音を出す練習から始めます。地域の大人や上級生に教わりながら練習し、本番までに笛を吹けるようになりました。



◀勢いをつけてドランジャーをぶつけ合う若衆(下町)

800年の伝統 竹迫観音祭

農業振興や交通安全を祈願して行なわれる竹迫観音祭は、約800年前から竹迫地区(上町・横町・下町)で受け継がれている伝統行事です。源頼朝が征夷大將軍になったとき、竹迫地頭職の中原師員(もろかず)が国家安全を祈るため、頼朝の許可を得て始めた「風流盆踊り」が起源とされています。

7月11日、3町の保存会はドランジャーと呼ばれる台車に赤い幔幕を張ってあんどんを灯し、太鼓2張りを乗せまです。消防団を中心とする若衆が太鼓をたたきながら、子どもたちの笛の音に乘せて重たいドランジャーを引き、上町の観音堂を目指します。

夕暮れ時、昼間からの雨も小降りになり、辺りがだんだん薄暗くなってきました。力強い太鼓と優雅な笛の音が鳴り響き、通りは観覧客でいっぱいです。雨が止み、日が沈んでしばらくたつと、中町の交差点でようやく出会う3町のドランジャー。大きな掛け声と共に何度も激しくぶつかり合い、祭の雰囲気盛り上げます。そうして連なった3台が目指すのは坂の上の観音堂。重たいドランジャーが上り坂を超え、階段を勢いよく駆け上がる勇壮な様子は多くの人を魅了します。

3町が観音堂の周りを2周奉納したあと、笛の音は往路での「槍巻き」から「道楽」の曲に変化。観音堂をさらに2周してゆつくりと各地区に帰っていき、祭は終わりを迎えました。年々にぎわいを増すこの祭。少子高齢化で担い手が減るなか、地域の人たちの手で懸命に守られ、大切に受け継がれています。



1.若衆の力強い掛け声と共に響く太鼓(上町) 2.観音堂前の階段を下りるドランジャー(横町) 3.練習した笛で祭りを盛り上げる子どもたち

※6月末現在
()内は前月比

人口	59,288(+ 87)
世帯	22,544(+ 37)
出生	60
死亡	40
転入	201
転出	134



動きの

発行/合志市
編集/企画課
☎248-1813
〒861-1195
熊本県合志市竹迫2140
ホームページアドレス
<http://www.city.koshi.lg.jp>
Eメール kikaku@city.koshi.lg.jp
発行日/平成27年8月6日



携帯用サイト

今月号で特集したブルーエンカウンターの皆さんをはじめ、熊本で、そして合志市で育った人たちが全国で活躍しています。まだ夢に向かっている途中かもしれないが、その姿はこれまで重ねた努力の集大成。身近に感じて励まされたい。だから、ふるさと合志の誇りとして多くの人に知ってもらいたい、みんなで精いっぱい応援したい。

毎回、取材のたびに緊張しますが、広報の仕事を通じて多くの人と出会い、皆さんの思いに触れるたびに「やってよかった」と感じます。まだまだ力不足ですが、出会った皆さんからの刺激を原動力にして、人の頑張りを伝えられる広報マンになるのが私の夢です。なんて、少しかつつけすぎましたかね。

©

ちどりふで